

## 「メロディ様」失踪事件

村上清明

長野県のある高校に「メロディ様」というおまじないが流行していた。どこにでもあるたわいなおまじないだと思った私は、オカルト研究と言う使命感のためだけに長野県D市に向かった。

メロディ様の情報を得るために生徒達に話を聞いた。いわく、「テストで良い点を取りたい時なんかメロディを口ずさむ」、「正しいメロディを口ずさむと願いがかなう」、「寝る前に二回口ずさむと成績が良くなり、三回口ずさむと恋愛運が上がる」。やはり、こっくりさんやエンジェル様の類のものかと思った時、生徒は続けて言った。「でもね、四回言ったら悪い事が起こるの」どんな悪い事が起こるかと尋ねる。「メロディ様が流るり出してから、月に一人のペースで失踪者が出てるんだって」学校関係者に確認したところすでに六人の失踪者が出ているとのこと。確かに、半年前に流行し始めてから月に一人のペースで失踪者が出ている。そして、生徒は決定的な事を言った。「メロディ様を流行らせ

たのは、音楽の先生よ。あの人が授業中にピアノでメロディを弾いたの」そこで私は、その女教師に突撃インタビューを行った。しかし、彼女は煙草を吸いながらその事実を否認した。そして、私が彼女自身試した事があるかと聞くと、女教師は赤面して否定した。

インタビューを終え、帰ろうとした時に騒ぎが起きた。新たな失踪者が出たのだ。その一部始終を見ていた用務員（29才 男性）によると、それは失踪ではなく消滅だと、にわかには信じられない事を言った。「二人の子が一人に『メロディを教えろって』絡んでたんだ。俺が止めようとした時、（絡まれていた子が）メロディを口ずさんだんだ。そしたら、俺達の目の前でその子が消え始めたんだ。消えながらその子、『これが正しいメロディだ』って言ってたっけ」

人が消滅！

私はその子に迫っていた二人に事情を聞こうとしたが、二人とも怯えていて人前に出られる状態ではないという事だった。

その日の夕方に、友人から連絡があり、件の高校に通っている姪御さんが奇妙な本を借りてきたと

言う事だった。友人宅に伺いその本を見せてもらった。保存状態は悪いが私の見立てでは江戸末期のものらしい。慎重にページをめくると、五線府が引いてありメロデイが書かれていた。これをどうしたのかと姪御のゆかりさん（仮名）に尋ねると、例の女教師に渡され、今夜学校に持って来るように言われたらしい。次のターゲットがゆかりさんではいけないと思い、友人と私は彼女に同行する事にした。友人は夜の学校を不気味だったが、私はこれより遙かに恐ろしいところに行った事があるので（拙著「恐山二泊三日」参照）、二人の前に立ち、開放された学校の門を通り抜けた。校舎に近づくとも屋上から例のメロデイを合唱しているのが聞こえたので、三人で急いでそこに向かった。途中で夜番をしていた用務員に会ったので、事情を説明したところ、一緒に行くというので四人で屋上に向かった。屋上の扉を開くとそこには異様な光景が広がっていた。ゆかりさんと用務員の話によると、例の女教師に向かつて「く」の字に立って合唱していたのは、全て失踪した生徒だったのだ。そちらに気を取

られていた私は、手にしていた古い本を後から奪われた。後を見ると、トランス状態に陥ったゆかりさんが女教師にその本を投げ渡したのだった。女教師は懐から取り出したライターでおもむろにその本に火をつけた。ゆかりさんが合唱している生徒達の列に加わろうとするので友人が彼女を羽交い締めにするのを確認すると、わたしは用務員と共に女教師を止めに行った。女教師を押さえ込むと、生徒達は力なく倒れた。用務員に彼女を押さえもらっている間にわたしは警察を呼び、彼女は幼児誘拐と監禁の容疑で逮捕された。

あの本を燃やされた今となっては、女教師が何をしようとしたのかはわからない。しかし、あの屋上の雰囲気は、わたしがルーマニアで悪魔召喚の儀式を目撃したときと似ていた。しかし、我々に真実を知る術はない。

（平成十五年八月二十四日 東京の自宅にて）